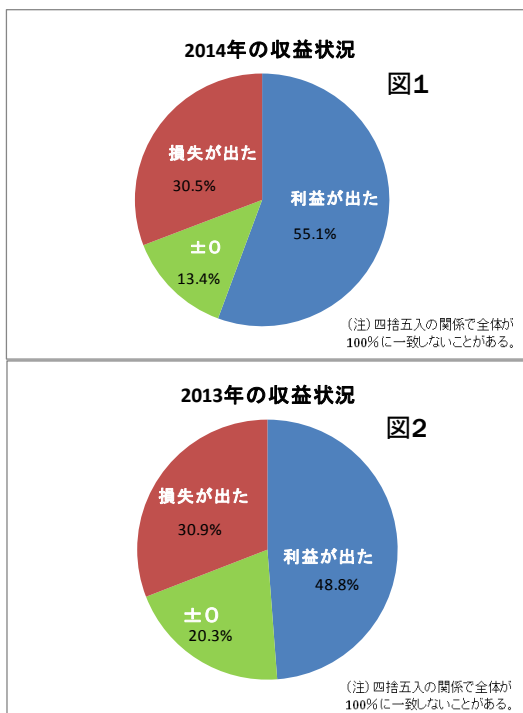


外為短観レビュー FX個人投資家2014年の収支

◆はじめに

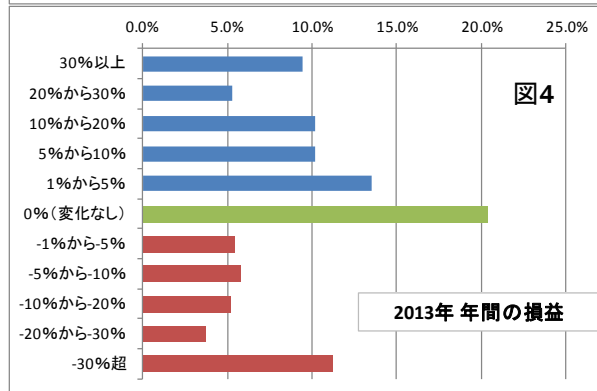
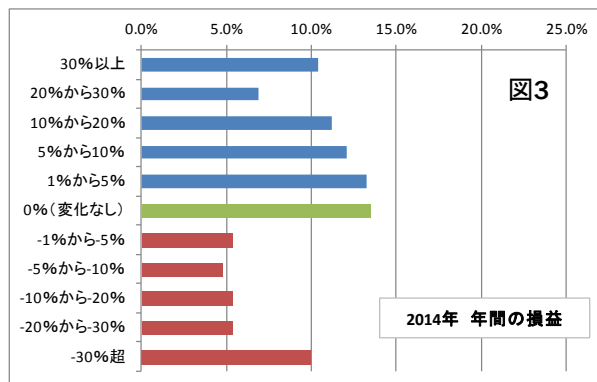
昨年12月、株式会社外為どっとコムが同社の顧客を対象に毎月実施しているアンケート調査で2014年のFX取引の成績(収支)を尋ねたところ、55.1%の個人投資家が「なにがしかの利益を得た」事が明らかとなった(図1)。これは、2013年の調査結果(48.8%)を上回っており(図2)、「なにがしかの損失が出た」割合は、わずかとはいえ前年から減少した。FX個人投資家全体としての成績は1年前に比べ向上したと言えるだろう。ただ、調査結果の詳細を眺めると、問題点が幾つか見つけた。今後、さらなる投資成績の向上に役立てていただくためにも、ここでそのポイントを指摘しておきたい。



◆「損小・利大」の実践

様々な材料を様々な角度から消化して、時には未消化のままに変動する為替相場において、全戦全勝は極めて困難である事は誰もが知るところだろう。そこで、「損小・利大」を実践できるか否かが、最終的な収益を大きく左右する事になる。言い換えれば「損の出し方」が重要という事だろう。ただ、残念ながらFX個人投資家の多くは「損の出し方」が上手ではない事が、アンケート調査の結果から浮かび上がった。

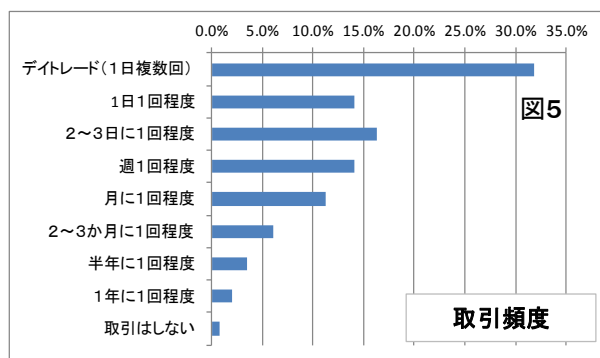
2014年の損益率について尋ねたアンケート調査の結果、損失を出した(図3の横棒グラフの赤色部分)投資家の中で最も多かったのは「-30%



本レポートは、投資判断の参考となる情報の提供を目的としたものであり、投資勧誘を目的として提供するものではありません。投資方針や時期選択等の最終決定はご自身で判断されますようお願いいたします。また、本レポートに記載された意見や予測等は、今後予告なしに変更されることがございます。なお、本レポートにより利用者の皆様に生じたいかなる損害についても、株式会社外為どっとコム総合研究所ならびに株式会社外為どっとコムは一切の責任を負いかねますことをご了承願います。

超(9.9%)」であった。一方で、利益を出した(図3の青色部分)投資家の中で最も回答割合が多かったのは「1%から5%(13.2%)」であった。2013年の調査(図4)でも同様の結果となっており、個人投資家のFX取引は「利益は小さく、かつ、損失は大きく」なりがちのように見える。

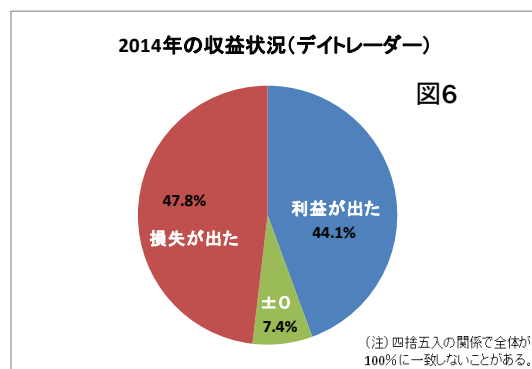
この損益状況に関するアンケート調査では、「その損益についての最大の要因は何だと思われるか、コメント欄にお書きください」との設問を設けて自由記述形式で回答を求めた。その際、「30%超の損失」とした向きの回答には「損切りが出来なかったため」が圧倒的に多かった。また、「予想以上に円安に振れたため」との声も少なくなかった。逆張りの円買いポジションを持ったものの、思惑が外れて円安が進行した局面で、損切りが遅れた事が致命傷になったものと考えられる。この記述を見る限り、なぜ「損大・利小」になってしまうのかについて、FX投資家の多くはその原因を理解していると言えるだろう。



◆デイトレーダーの不振

次に気になるのは、デイトレーダーの不振が目立った点だ。毎月のアンケート調査には「取引頻度」に関する項目があり、グラフ内の選択肢からひとつだけを選んでもらう形で回答を得ているが、12月調査では「デイトレード(1日複数回)」と答えた割合が31.8%と最も多かった(図5)。

そのデイトレーダーの2014年の収益状況(図6)を調べると、「利益が出た(44.1%)」向きを、「損失が出た(47.8%)」向きが上回ったのだ。図1の全回答者の割合と比較すると、損失が出た割合は17.3%ポイントも高かった。もちろん、全てのデイトレーダーの成績が悪い訳ではなく、大きな利益を稼ぎ出している投資家層にはデイトレーダーの割合が高いという事実もある。図3で示した損益率の調査に「30%以上の利益が出た」と答えた向きの中では、デイトレーダーが27.8%に上った。ただし、その一方で「30%超の損失が出た」とした中では、デイトレーダーの割合(43.0%)が突出して高かったという事実もある。ある程度予想



本レポートは、投資判断の参考となる情報の提供を目的としたものであり、投資勧誘を目的として提供するものではありません。投資方針や時期選択等の最終決定はご自身で判断されますようお願いいたします。また、本レポートに記載された意見や予測等は、今後予告なしに変更されることがございます。なお、本レポートにより利用者の皆様に生じたいかなる損害についても、株式会社外為どっとコム総合研究所ならびに株式会社外為どっとコムは一切の責任を負いかねますことをご了承願います。

Copyright©2015 Gaitame.com Research Institute Ltd. All Rights Reserved. www.gaitamesk.com

通りの結果と言えるのかもしれないが、デイトレードは「損大・利大」の取引スタイルなのであろう。

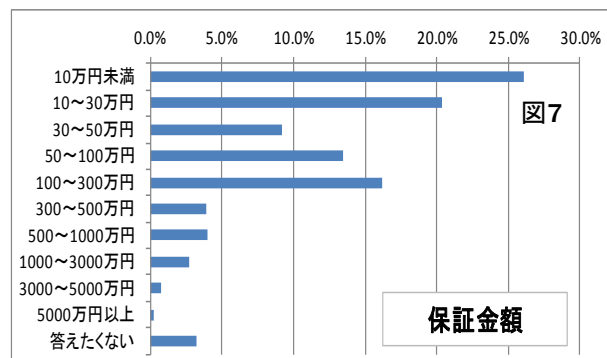
◆小額保証金取引も苦戦

もう一点は、小額保証金での取引の成績が芳しくない事だ。同様に、毎月のアンケート調査では「取引保証金の額」についても尋ねているが、12月調査では「10万円未満」が26.1%と最も多く、次いで「10～30万円(20.4%)と、比較的小額の保証金で取引するFX投資家が多数を占めた(図7)。そこで、ここでも同様に小額保証金(30万円未満)で取引する投資家の損益状況を切り出してみると、図8のような結果になった。やはり、図1の全回答者の割合に比べると「損失が出た」とする割合が高い事がわかる。

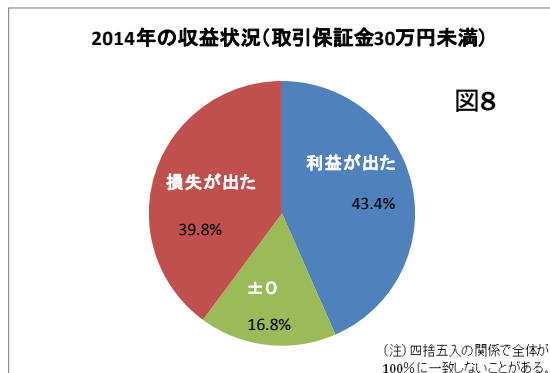
また、図3の調査(年間損益率)に「30%超の損失が出た」と答えた向きの45.3%が「10万円未満」の保証金で取引したとしている点特徴的だ。小額の保証金で取引が可能であるというの

がFX取引の最大の長所である事に異論はないが、低保証金かつデイトレードという取引スタイルで高い収益を上げる事は決して簡単ではないと言えるだろう。

損切りルールを確立する事と、ある程度余裕をもって相場に臨む事が勝者への近道と言えるかもしれない。(了)



※なお、「取引頻度」と「保証金の額」に関するアンケート調査の結果については、毎月発行の「外為短観」では公開しておらず、年に1度発行する「外為白書」にてまとめて公開している。



本レポートは、投資判断の参考となる情報の提供を目的としたものであり、投資勧誘を目的として提供するものではありません。投資方針や時期選択等の最終決定はご自身で判断されますようお願いいたします。また、本レポートに記載された意見や予測等は、今後予告なしに変更されることがございます。なお、本レポートにより利用者の皆様に生じたいかなる損害についても、株式会社外為どっとコム総合研究所ならびに株式会社外為どっとコムは一切の責任を負いかねますことをご了承願います。

Copyright©2015 Gaitame.com Research Institute Ltd. All Rights Reserved. www.gaitamesk.com